



厚生労働省の「平成21年度 国民医療費の概況」によると、平成21年度に病気やケガの治療のため医療機関に支払われた国民医療費（保険診療の対象とならない先進医療等、入院時室料差額分、歯科差額分等などの費用は含まない）は、過去最高の36兆67億円で、前年度に比べ1兆1,983億円、3.4%の増加でした。

人口1人当たりの国民医療費は28万2,400円で、前年度比3.6%増加。国民医療費の対国内総生産（GDP）比は7.60%（前年度7.07%）、対国民所得（NI）比は10.61%（前年度9.90%）となっています。

その推移は右のグラフのとおり増加の一途となっています。平成18年度は診療報酬のマイナス改定の影響で前年度より減少しましたが、平成19年度からはまた増加しています。その要因としては人口の高齢化や医療技術の高度化などが挙げられます。また、長引く景気低迷により所得が伸びない状況でも増加を続けているため、国民所得や国内総生産に対する比率は、急激に高くなっています。

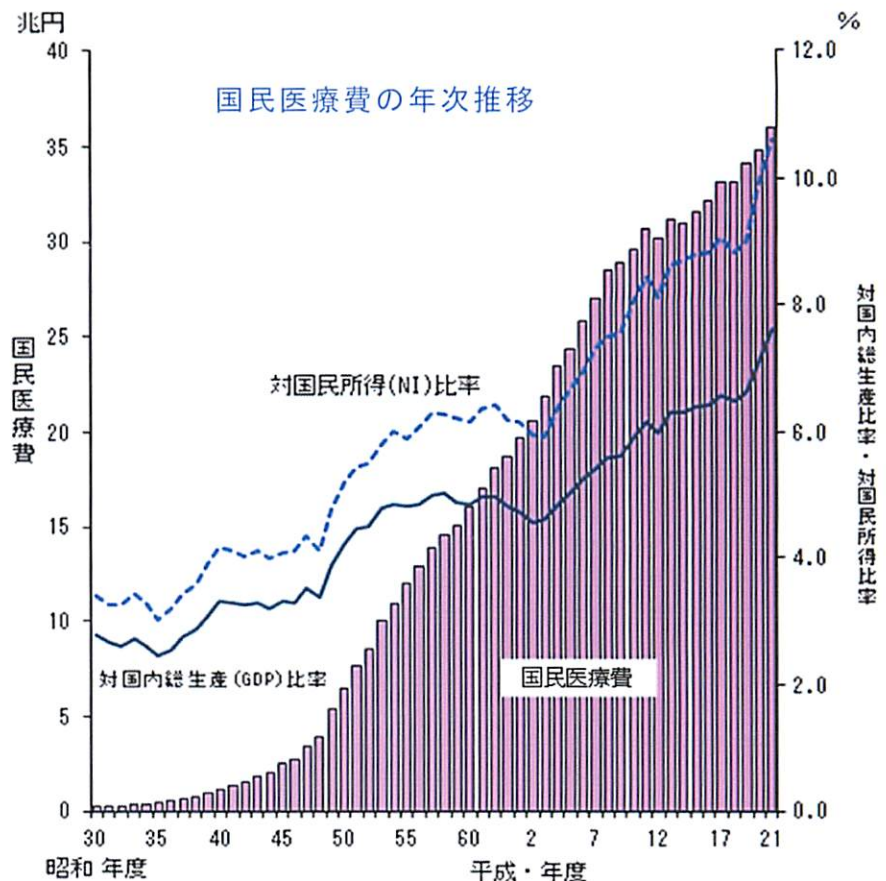
診療種類別にみると、一般診療医療費が26兆7,425億円（入院13兆2,602億円、入院外13兆4,823億円）で、74.3%を占めます。

一般診療医療費の傷病分類別で、もっと

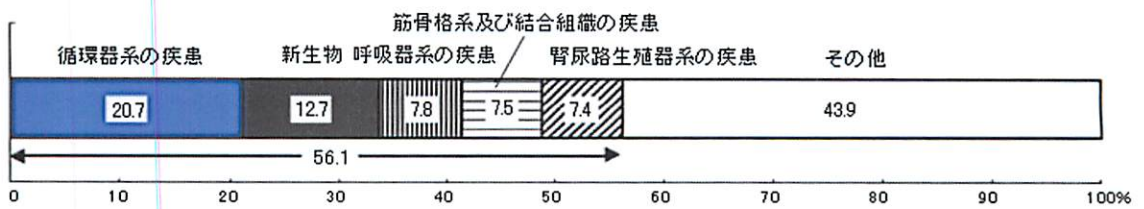
過去最高を更新している国民医療費

医療技術の高度化や高齢化を背景に増加

も多かったのは高血圧、虚血性心疾患、脳血管疾患などの「循環器系の疾患」1兆9,870億円と続きます。65歳未満では「新生物」が最も多く、65歳以上では「循環器系の疾患」が最も多くなっています。



上位5傷病別一般診療医療費構成割合 (%)



(出典) 厚生労働省「平成21年 国民医療費の概況」